

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）階層別研修プログラムの開発に係る調査研究 - 熱海市支援活動のエスノグラフィー作成 -				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・准教授	氏名	鈴木 俊文
	研究分担者	所属・職名	静岡県社会福祉協議会 経営支援課・課長	氏名	松永 和樹
		所属・職名	静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課・主任	氏名	渡邊 麻由
		所属・職名	静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課・主事	氏名	新村 友李
		所属・職名	静岡県健康福祉部福祉長寿局福祉 長寿支援課・主事	氏名	細井 剣登
	発表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・准教授	氏名	鈴木 俊文

講演題目	災害派遣福祉チームの避難所活動による支援プロセスに関する調査研究 - 熱海市ホテル避難所の支援活動を事例とした災害エスノグラフィーの作成に向けて -
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><b>1. 研究の目的</b></p> <p>本研究は、災害発生時に一般避難所等において災害時要配慮者（高齢者、障がい者、子ども等）を対象に、災害関連死などの2次被害防止を目的に福祉支援を行う「災害派遣福祉チーム（以下、DWAT（Disaster Welfare Assistance Team）登録員）」の活動実態を明らかにし、DWAT登録員の養成、活動に有用な研修教材（災害エスノグラフィー）の開発を目的に行う2ケ年計画の調査研究である。</p> <p>調査は、2021年に熱海市における一般避難所での派遣支援活動を経験した、DWAT登録員を対象にしたインタビュー調査、活動日報等の記録収集を行う。分析は、質的研究法（修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ：以下M-GTA）を採用し、DWAT登録員が活動開始から終了までに実施した支援活動の概念化と生成した概念を支援プロセスとしてフェーズ化（構造化）する分析を行う。これらの分析結果を土台に、フェーズ毎に文脈化した記述を加え災害エスノグラフィーの作成を目指す。</p> <p><b>2. 今年度の成果</b></p> <p>分析テーマを「静岡 DWAT登録員によるホテル避難所での支援活動のプロセス（静岡 DWAT登録員はホテル避難所における活動マニュアルが存在しない中で、いかにして役割を担ったか）」とし、分析焦点者に「静岡県からの派遣要請により伊豆山土石流災害の支援活動を行った静岡DWAT登録員15名（各クルールのリーダー）」を設定した。このうえで「エスノグラフィックアプローチによるインタビュー調査と資料収集を行った。これらを分析データにM-GTAにおける分析ワークシートを活用して概念生成を行った。この結果、支援活動を構成する95の概念を生成した。さらに、これら95概念をDWAT登録員の活動開始から終了に至るまでの支援プロセスとして、帰納的に類型化したカテゴリー分析を加え、活動期を段階的フェーズであらわす10カテゴリーで整理した（活動準備期→チーム合流期→活動始動期→活動探索期→活動創出期→活動展開期→活動定着期→活動拡大期→活動終結期→振り返り期）。</p> <p><b>3. 今後の展望（次年度計画）</b></p> <p>今後は、災害エスノグラフィーの作成に向けて、本研究において生成した概念を事例に、フェーズ化した支援プロセスに沿って具体的な文脈として記述する研究（分析）を進める。</p>